最後に、今回の Neuroscience2016 に International Fellow として参加させていただくことで、学会発表とネットワーク作りのトレーニング、自分の研究の PR とフィードバック、関連分野の最新の動向の調査、そしてポスドクポジションの獲得に向けた活動と多くの事柄を達成することができました。このような貴重な機会を与えてくださった JNS の審査員の先生方をはじめ、関係者の方々にここに深く感謝致します。

（右写真）学会場に近いガスランプクオーターの様子。多くのレストランや商店が並んでいました。

参加記

Neuroscience 2016 参加記

理化学研究所　脳科学総合研究センター
行動・神経回路研究チーム
研究員　坪田 匡史

Society for Neuroscience の annual meeting が 2016 年 11 月 12 日 ~16 日の日程で開催されました。私は JNS-SfN Exchange Travel Award の受賞者として、IBRO からの受賞者などと共に行われた poster session 等に参加させていただく機会を得ることができましたので、参加記として手短にその報告をさせていただきます。

初日の朝にまず、international fellows orientation session がマリオットホテルの meeting room において開催されました。軽食やコーヒーが用意され、とてもリラックスした雰囲気の中で、各国（特に南米からの参加者が多かったようです）の fellow と交流する機会が得られました。Session では、まず初めに参加者一人一人が手短に自己紹介を行いました。特に、「今回の SfN で何を得ることを目的としているか」について皆が一言で説明をしたのですが、将来の job を探すため、といった旨を述べる方が多く、興味深かったです。私は今回の SfN が 5 度目の参加なのですが、過去を振り返ると「参加によって何を得たいか」という点がそれほど明確ではなかったように思います。参加者の規模が桁違いの SfN でしか得られないことはたくさんあるはずなので、この点の重要性を再認識しました。また、自己紹介の仕方やポスター発表についてのレクチャーおよびディスカッションも行われました。自分の発表を行うセッションと同時間帯に行われる他のポスター等を見たい場合にどうするか、主に未発表のデータで構成するべきかそれとも発表済みのデータで構成するのが良いか、ポスターの写真を撮ろうとする人にどう対応するか、などテーマは様々で、興味深い意見をたくさん聞くことができました。中でも私は、エレベータートークを心がけるべきである、という話が印象に残っています。一言で言ってしまえば「短時間で要点を説明して相手の心をつかむ」ということだと思うのですが、自己紹介にしてもポスター発表にしても、これを実際に行うことは難しいものです。最も伝えたいことを明確にしたうえで、実際の場面を想定して事前に練習を行うことの必要性を痛感しました。

また、同日の夜には international fellows poster session が開催されました。ここでも食事などが用意されており、それを片手に朝の session で知り合った人達と互いの研究についてディスカッションをする機会が得られました。参加者は 6~70 人程度でしたので、分野の重なっている発表はそれほど多くなく、そのため逆に普段はあまり接する機会のない研究についてもじっくりとディスカッションでき、興味や視野を広げる上でも貴重な機会でした。

参加者はみな同世代で、今後それぞれの分野を引っ張っていくことになる研究者達だと思いますので、今回の session で得られた繋がりはこれからの貴重な財産になっていくと思います。最後に、このような機会を与えていただいた日本神経科学学会ならびに SfN の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

学会会場から撮影した夕日。サンディエゴは毎日本当に天気が良かったです。